

## 実施体制及び国内外のネットワーク

<b>提案主体名</b>	日本土地建物株式会社(湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会事務局)	
<b>提案プロジェクト名</b>	懐かしい未来の里づくり ～湘南ひらつか・ゆるぎプロジェクト～	
<b>① 実施体制(構成主体と役割分担)</b>		
<p>企業、行政、学術機関、住民、即ち、産・官・学・民の4者にて活性化に向けた取組みを実施。各主体の役割等は以下の通り。</p> <p>産： → プロジェクトのコーディネーターとしての活動。「事業としての里山再生」に取組む。 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本土地建物</li> <li>・事業主体(デベロップメント、出資や従業員マンパワー、資材提供等)／・拠点施設等の継続的所有・運営支援／・管理組合法人の運営への協力／・意識の高い生活者(アクティブ・シニア等)を獲得し、継続的に誘致していく仕組みづくり・運営／・隣接するゴルフクラブとの連携／</li> <li>・CSR活動としての里山管理活動への参画</li> <li>●その他の企業</li> <li>・環境技術などの最先端技術の導入、実証実験フィールドとしての活用／・CSR活動としての里山管理活動への参画</li> </ul> <p>官： → 行政としての地域課題の解決。 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平塚市等</li> <li>・里山管理活動への参画(コーディネーターや専門家派遣、活動への助成など)／・農業生産法人の活動への参画(許認可、活動への助成等)／・公共公益施設の設置、管理委託(アドプト制度等による支援)</li> <li>●神奈川県農業技術センター</li> <li>・農的課題の解決に向けた協力・技術指導／・地域ブランド構築に向けた協力・技術指導</li> </ul> <p>学： → 研究、教育の舞台。里山再生を始め地域活性化への専門的・先端的知見等の提供、協力。専門家の養成。 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●東京農業大学</li> <li>・継続的な里地里山の定点観測と里山管理計画の構築／・学生等の里山管理活動への参加／・自然環境回復・保全に関する技術的指導／・自然体験プログラム等の運営／・大学サテライトの進出(研究実験フィールドとしての活用)</li> <li>●東海大学、神奈川大学</li> <li>・専門分野を活かしたプログラム等の運営の検討／・地元大学としての参画(地域の大学との積極的な連携)</li> </ul> <p>民： → 地域活性化の推進主体。安心安全の推進、地域課題解決とともに様々な里山の“恵み”等による資産価値の向上。 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会 (組織の概要は右記載※ご参照)</li> <li>・自治会傘下の地域主体の中心的組織体／・地域の活性化に向けた様々な活動を検討、実行</li> <li>●地域の農業者等</li> <li>・農業生産法人への参画／・農地提供、土地所有者としての協力(里山部分)／・里山管理や農業の技術指導</li> <li>●地域住民</li> <li>・里山管理活動への参画(ボランティア活動)／・さまざまな里山の“恵み”のプログラム利用(貸し農園の利用)(直売所、レストランの利用)(森の交流拠点でのプログラム参加)(森の健康拠点の利用)</li> <li>・ソーシャルビジネス等の起業</li> <li>●新たな住まい手</li> <li>・管理組合法人の一員として、共有緑地の維持管理のための労務・資金等の提供／・里山管理活動への参画(ボランティア活動)／・さまざまな里山の“恵み”のプログラム利用／・ソーシャルビジネス等の起業</li> </ul>		
<p>※ 平成19年10月、本地区の中でも市街地に隣接する『湘南ひらつか・ゆるぎ地区』を先導的に活性化を図るべき地区と位置づけ、「吉沢地区自治会連合会」(地域の4つの自治会の集合体)の活動の一環として、『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』が立ち上がる(現会員90名、地元からの要望を受け日本土地建物株式会社が事務局を運営)。これまで、『湘南ひらつか・ゆるぎ地区』の活性化の実現に向け、様々な協議会活動等を進め、平成22年11月、</p>		
<b>② 実施体制(プロジェクトマネジメントのための具体的な方法論)</b>		
<p>持続可能な仕組みを、産官学民の連携によるエリアマネジメント組織で実現</p> <p>エリアマネジメント組織は、事業全体の調整や個々の事業の相互連携を図るプラットフォームとの位置づけ</p> <p>コンセプトを実現し、地域で展開するさまざまな活動・施設を統括的・持続的に管理運営し、PDCAサイクルを活用しながら、良好な環境の維持、地域価値の向上に努めるエリアマネジメントを実現する</p> <p>■次世代へ引き継ぎ、コンセプトを維持していく具体的な仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本土地建物が責任を持って地域の価値向上に継続的に取組む(エリアマネジメントのコーディネーターとしての活動を継続)</li> <li>●学術研究機関(東京農業大学等)が、まちを継続的に見守る(生態系の保全・再生・創出のお目付け役)</li> <li>●建て替えや増改築等に対する建築協定や地区計画等ハード面のルールづくり(デザインガイドライン等)によるコンセプトの維持</li> <li>●コンセプトに共感する生活者を継続的に獲得する仕組みを設ける <ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在購入者層の組織化・コンセプトに共感する居住希望者を継続的に集め、組織化し、住み替えに備える</li> <li>・優先交渉権の設定……住み替えや相続などの理由で売却したい場合、第一に交渉してもらうように義務づけ、コンセプトにふさわしい購入者を紹介</li> </ul> </li> </ul>		
<b>③ 国内外のネットワーク(国内外のベストプラクティスの相互交流のための具体的な方法論)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」「山梨県小菅村」「石川県輪島市三井町」「福島県鮫川村」に於いて、地域再生のために活動しているNPO団体・個人等で東京農業大学総合研究所内に「地域再生研究部会」を設立。設立記念フォーラムを今年2月に開催。今後も継続的に部会開催。相互の情報交換等を実施。</li> <li>・今後も年数回の総会を開催するなど、賛同者を増やす取組みを継続し、「地域再生研究部会」への参加者を増やしていく予定。</li> <li>・COP10における「SATOYAMAイニシアティブ」の採択を受けて設立された、「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ」等への参加を展望。</li> </ul>		

#### ④ 国内外のネットワーク(国内外の都市・地域との連携を強化するための具体的な方法論)

- ・平成22年11月、平塚市吉沢地区の活性化に向け(産)日本土地建物株式会社、(官)平塚市、(学)東京農業大学、(民)『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』の4者が地域再生・活性化に向け、包括的に持続的に力強く推進していくため、『平塚市吉沢地区の活性化に向けた連携協力に関する協定書』を締結。
- ・協定レベルにて既に地方自治体、学術研究機関ともネットワーク化を図り、協力関係にあるが、上記③の学術研究分野での連携、その他各地域を基盤とする産業分野での連携等、様々な角度からネットワーク化の強化を促進。
- ・フォーラムや事例研究会、相互交流、産業交流等を通じて本プロジェクトを広くアピール。